



申 26 号

過去の教訓から学び、速やかな対策・体制を構築し、新幹線の安全・安定輸送、ひいてはお客さまの命を守るため、詳細の開示と迅速な対策を求める!



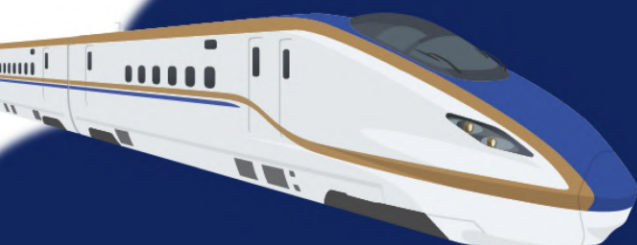
新幹線床下フサギ板落失に関する申し入れ

2月7日 新幹線統括本部へ提出

申し入れ項目

1. 新幹線床下フサギ板落失が発生した原因ならびに背後要因と対策を具体的に明らかにすること。また、同日発生した郡山駅ポイント不転換とフサギ板落失との因果関係を明らかにすること。
2. E5系新幹線台車周辺に着雪しにくい構造とするように、E7系新造車両同様の雪庇ダミーを設置すること。
3. 冬季対策として雪害時における要員ならびに予備品等の配置体制の見直しを行うこと。
4. お客さまや地域の皆さまから期待されている「安全」という「変わらぬ使命」を果たすためにCSR（企業の社会的責任）として情報開示を速やかに行うこと。

JR東日本のフラグシップ商品である新幹線を安全で安心して快適に利用できるものとするために真摯な回答と誠実な団体交渉を行うべきだ!





申
26
号



新幹線床下フサギ板落失に関する申し入れ

4月28日 団体交渉を行う!

2022年1月13日、東北新幹線でE5系「床下フサギ板」の落失が発見されました。E5系フサギ板については、2012年冬季に変形や落失が多発したため対策を行ったにも関わらず、その後も毎年同事象が多発していました。輸送サービス労組は、新幹線の更なる安全性の向上、安定した輸送の確保、ご利用になるお客さまの「いのち」を守る事が公共交通機関の一翼を担う私たちの使命です。今回の事象に至った原因を詳細に明らかにし、迅速な対応を求めるために、申26号を申し入れ、団体交渉へ臨みました。

組
合

- なぜ、落失物を発見した時間帯から直ぐに、一斉点検を指示しなかったのか。
- 落失発生直後、他車両にも同事象が起きた可能性があるにも関わらず、なぜ速度制限をかけなかったのか。対策もなされてなく、安全上問題ではないのか。
- 今事象は、「いのち」に関わる重大な事象である。会社として、どのように認識しているか

会
社

- ✓ 発生当初、床下フサギ板なのかもわからなかった。判明直後、速やかに一斉点検を指示した。
- ✓ 対策として、冬までに全ての編成でフサギ板をクランプ式からボルト締結に切り替えていく。
- ✓ 我々も同じ認識であり、二度と起こさないように対策をとっていく。そこは「労使共通の認識、と思っ
ていただいかまわない。

会社より

今事象は「いのち」に関わる重大な事象であることは「労使の共通認識」であり、二度と起こさないための対策をとっていくことを

確認!

組
合

- 現段階において、E5系新幹線に「雪庇ダミー」を設置する考えはないという根拠は。
- E5系台車近傍に着雪状況がどうなのかのデータ取り、検証は行っているのか。
- 冬季対策における車両センターの予備品の配置、設備側における要員ならびに拠点のあり方についての考えは。

会
社

- ✓ E5系とE7系新幹線では、台車回りの構造、着雪の状況も違う。効果があるのか判断できない。現在、台車端部にヒーターを取り付けて、雪がどのように付着するのか検証を行っている。
- ✓ E5系については、床下フサギ板落失防止の対策を優先的に行いたい考えである。
- ✓ 予備品については、幹総セで冬季前に重点予備品等を整備して各車両センターに送れるよう体制を行うことで進めており、必要な部品の配備はしている。要員についても、冬季多客期間、大雪予報時は要員の増配備を行った。今年度以降も同様の取り組みを進めていく。

「安全の追求」に終わりはない!

同事象を二度と起こさないために、

「設備投資」を含めた安全対策を早急に行うことが重要だ!

「安全・いのち」に関わる重大な事象は、積極的に「情報開示」を行っていく企業風土が当社の信頼を高めていくことにつながる!

「安全を追求するための努力は惜しまない」ことを労使で確認!

JR東日本のフラグシップ商品である新幹線の安全を追求するために
しっかりと対策をとっていくことを確認し、団体交渉を終了!

